

一般調査報告書
観光関連の愛知 PR について

6月、中国の多くの地方が梅雨入りしました。じめじめとした気候の中ではありましたが、各種のイベントが開催され、多くの観衆でにぎわいました。日本での報道を拝見しますと、中国の経済については悲観的な見方が多いように見受けられますが、経済の中心地である上海で暮らしていると、日本のバブル経済崩壊後と同じように、様々な産業で「勝ち組」と「負け組」がこれまで以上にはっきり分かれてきているような印象を持ちます。

そうした中で、「日本」およびその関連のコンテンツは、一定の集客が期待できるイベントとして認知されているように思われます。筆者が駐在している上海が特にその傾向が強い、という印象はぬぐえませんが、市内で開催される日本関連のイベントはどれも盛況で、また日本のアニメ映画が上映されるたびに、記録的な興行収入についての報道が飛び交い、関連グッズを販売するポップアップ（期間限定）ショップ含め、大きな関心を集め続けているのは確かだと感じます。

愛知県でも、本年度に入りほぼ毎月に1回、観光関連の展示会や日本関連のイベント会場などにおいて、ブースを展開したり、パンフレットを配布するなど、観光地としての愛知を PR しています。今回の報告では、こうした愛知の観光 PR について、報告したいと思います。

【日本関連フェスティバルでの愛知ブース出展】

まず、愛知の PR 方法として、日本関連のイベントでの愛知ブース出展があります。これは最もシンプルな PR 方法で、今年度は4月20-21日、江蘇省蘇州市にて開催された日本フェスティバル「Japan Mall」に、愛知県もブース出展して来場者に愛知を PR しました。このイベントは、対日ビジネス経済特区を抱える蘇州市が同特区内に建設している開発地域の PR を兼ねて開催されたもので、日本に関心を持つ参加者が多く集まりました。

愛知県ブースでは、観光パンフレットや中国に進出済みの県内企業の製品などを展示し、化粧品のテスト、飲料の試飲などを実施しました。参加者からは、愛知県の位置が分からなかったが、愛知県の企業は良く知っていることや、そうした企業が蘇州市内に工場を構えて現地の雇用や経済に貢献していることは全く知らず勉強になった、といった驚きの声が上がリ、対話をしながら PR すること、観光訪問先の愛知としてだけでなく、地元を根を下ろした愛知県企業の存在も一緒に PR することで、さらに愛知県訪問への動機づけを意識させることができたのではないかと考えています。

また展示会の途中で、蘇州市周辺で事業を展開する旅行代理店などが集まり、愛知県を含む日本の地方自治体事務所の所長との間で意見交換会が催され、修学旅行や研修旅行などのテーマ性の強い旅行パッケージ、キャンプやグランピングといったアウトドアでのおすすめ訪問先などの質問が飛び交いました。愛知県に関しては、団体客がジブリパークを訪問する際、行政がどの程度支援できるのか、といった

質問などがありました。

愛知県ブース



蘇州副市長、上海総領事も来訪



多くの来場者でにぎわう



現地旅行代理店との意見交換会も実施



【首都・北京で、「昇龍道」として愛知を含む中部地方をPR】

次に、愛知のPR方法として、周辺地域との広域連携が挙げられます。筆者の着任以降、特に力を入れているのがこのスタイルで、中部北陸9県のうち、上海などに事務所を構える自治体が「昇龍道（※）」として連携してブースを展開するものです。今年度は6月14～16日にかけて、北京で「2024北京国際旅遊博覧会（BITE2024）」が開催されました。愛知県は昨年（2023年6月）に引き続き、昇龍道の一員として、同展示会に展開された自治体国際化協会（CLAIR）ブースの一部に共同出展しました。前回出展時は、日本への団体旅行ビザが解禁されていなかったため、観光情報の情報発信にとどまっていたものが、今回は直接的なPRができたことが大きな違いです。

前回同様、他国政府、中国地方政府などと比較して、出展団体・展示配布資料・体験・演出・プレゼンテーション・ノベルティグッズなどが充実している日本ブースは終始多くの来場者を引き付けていました。特に展示会2日目の15日に、金杉憲治・駐中国日本大使が会場を訪れ、CLAIRブースとなりの日本

政府観光局（JNTO）のステージに登壇、来場者に挨拶をしたことで、日本ブース周辺は大きな盛り上がりを見せました。このことで、多くの来場者に日本はインバウンド事業に力を注いでいることを印象付けられたのではないかと感じています。

また、コロナ禍明け以降、多くの中国人旅行者が日本を訪問し、東京や大阪でのオーバーツーリズムの問題に直面したことも、多くの参加者は認識しているようでした。筆者自身、今年に入り一時帰国した際に大阪と名古屋の状況を調査したのですが、外国人旅行者の存在感は両都市で大きく異なり、名古屋及び周辺地域はまだ受け入れる余地が大きいと感じました。さらに、昇龍道ブースを訪れた人の多くが1回以上の訪日経験を有する「リピーター」で、そうした方々の目には昇龍道で提案する中部地方縦断の旅行コースが新鮮に映るとともに、オーバーツーリズムを避けて快適に旅行する新たなルートとして理解されたのではないかと考えています。

※ 昇龍道…中部運輸局、北陸信越運輸局及び中央日本総合観光機構が主導し、中部北陸9県の自治体、観光関係団体、観光事業者等と協働して中部北陸圏の知名度向上を図り、海外からのインバウンドを推進するプロジェクト。

（中部運輸局 WEB サイト <https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kikaku/syoryudo/>より）

昇龍道として、今回は静岡、長野、福井、愛知が共同でブース出展



JNTO ブースは各種のライブイベントと体験コーナーで参加者を惹きつけた



展示会場ではその場で日本旅行の予約をすることも可能



【中国人による日本語スピーチコンテストに参加、会場で愛知 PR】

また、旅行関連の展示会以外にも、日本に関心を持つ方が集まる可能性のある機会を捉え、愛知の PR を行うことも心がけています。本年 5 月に開催された、江蘇省で日本語を学ぶ学生が集まり開催された日本語スピーチコンテストに、筆者は審査員として参加しました。その際、イベント主催者の了解を得て、会場にて愛知のパンフレットを配布し、旅行先として、また留学先としての愛知も PR しました。

コンテスト参加者の多くは日本訪問経験がなく、また日本のどの地方にどのような特色があるのかが分からない、という状況でした。同時に、今回のイベントで筆者と交流した事で愛知への関心やイメージがわき、旅行先や留学先として愛知を意識し始めた、といった感想を伺うことができました。

今後こうしたイベントが開催された際は、プレゼンテーションなどを行うことも検討し、愛知の魅力をより積極的に打ち込んでいくことが、旅行訪問先として、また留学などの生活の拠点としての愛知の知名度を高めることにつながるのではないかと感じました。

流ちょうな日本語で3分間スピーチ



パンフレットを配布して愛知を PR



【地道な交流促進から相互理解、ビジネスも生まれる】

今回の報告でご紹介したように、愛知単県、周辺地域も合わせた広域連携、そして観光関連に限らないイベントでも積極的に愛知をPRし、観光誘客を図ろうと行動しておりますが、その根底にあるのは日中間の相互理解の促進と交流強化です。コロナ禍を経て、現在は日本人の中国訪問にビザが必要となり観光客が大幅に減少しているほか、景気低迷で海外旅行に出かける中国人も、コロナ禍前の水準を下回っていると聞いています。

こうした状況は一朝一夕に改善されるものではありませんが、あらゆるイベントを通じて愛知のPRを図ることで中国と愛知の交流を強化し、その機会に愛知の説明と対話を行うことで相互の理解を深め、旅行から留学、留学から就職、就職から日中のビジネス交流につながっていけば何よりだと考えます。1つ1つの事業は地味ですし、景況感の悪化を含め、日中間には様々な困難が頻繁に立ちまわりますが、こうした事業をしっかりと継続していくことで、目先の訪問客増加はもちろん、将来の愛知やビジネスを含む日中関係を支える人材を育てるお手伝いをしてまいります。

参考：最近の中国内の主な動き

- 6月1日 中国国家统计局と中国物流購買連合会の発表（5月31日）によれば、2024年5月の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）は49.5だった。前月から0.9ポイント下がり、好不況を判断する節目の50を3カ月ぶりに下回った。内外需を圧迫してきた懸念材料が、依然払拭されていないことが背景にある。
- 6月4日 中国工業情報省（工情省）など中央4部門の発表によれば、高度な通信技術などで安全性の高い自動運転を実現する自動車「インテリジェント・コネクテッド・ビークル（ICV）」の公道走行試験について、政府は自動車メーカーなどの九つの企業連合体に運行許可を与える。各社は安全性評価や車両登録など準備が整い次第、一部の地域で運行を始める。高度な自動運転技術を搭載する自動車の実用化に弾みがつきそうだ。
- 6月12日 中国国家统计局の発表によれば、2024年5月の消費者物価指数（CPI）は、前年同月比で0.3%上昇し、4カ月連続のプラスとなった。5月は労働節に伴う大型連休（1～5日）があり、旅行関連の価格が4.2%上がった。一方で価格競争の波が広がる自動車は値下がりが拡大した。
- 6月30日 中国国家统计局と中国物流購買連合会の発表によれば、2024年6月の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）は49.5だった。前月から横ばいで、好不況を判断する節目の50を割るのは2カ月連続。

※ 去る6月24日、上海市から高速鉄道で30分ほどの距離にある江蘇省・蘇州市において、蘇州日本人学校のスクールバスを待っていた日本人親子が襲撃され負傷し、同校スクールバス内への侵入を阻止しようとしたバス係員が刃物で刺され死亡する事件が発生しました。同係員の勇敢な行動に敬意を表し、心からのお悔やみを申し上げます。

愛知県上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、上海産業情報センターが、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。